

かつて、路線バスは地域に密着した住民の足として欠かせない存在でした。しかし、昭和40年代後半から車社会が進展したことにより、年々利用者が減少しています。

車社会の進展は、私たちの生活を大変便利にしました。しかしその反面、地域住民の足として利用されていた路線バスの利用は減少し、経営状況の悪化によって路線自体が廃止となったり、県や市が補助金を出してバス路線の維持をしなければならぬという状況をもたらしました。

本市においては、平成16年以前は市内で一番利用率の高い宝線が当時往復12便（現在6便）、一番便数の少ない盛里線においても往復6便（現在1・5便）の路線バスが走っており、地域の方の足として活躍していました。

利用者の減少により、やむなく減便されてきたことが利用者の利便性を欠くこととなり、さらに利用者が少なくなるという悪循環を起しています。このままでは、路線の廃止もやむを得ない状況です。

現在、公共交通の利用は、環境、安全、健康面など様々な面で見直されています。この大切な地域の足を維持するため、現在利用している人もしていない人も、私たちのまちの将来像を描きつつ、是非この機会に公共交通について考えてみましょう。

最近、公共交通（路線バスなど）を利用したことがありますか？

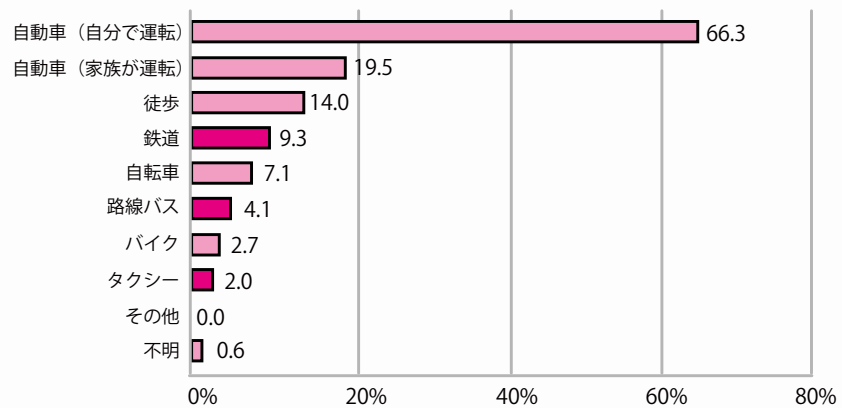
市民の身近な足として都留市駅を中心に走っている路線バスは、年々乗車人数が減少する中、運行事業者の赤字額の一部を市が負担することにより現在各路線の維持に努めています。

しかし、路線バスの利用者は年々減少の一途をたどっており、平成21年度から22年度にかけては乗車人数が半減となり、このまま放置しておけば路線バスの維持が難しくなる状況となっています（図表1）。

■図表1 路線バス利用者数の推移



■図表2 利用することが多い交通手段



■都留市駅に停車する多くのボンネットバス（昭和30～40年代）



自動車のように、玄関から目的地までドアツードアで結ぶ移動手段は非常に便利ですが、こうした公共交通などを利用して出かけるのも面白いかもしれません。

では、市民の皆さんは路線バスではなく、こういった手段で移動をする人が多いのでしょうか。平成22年度に市民、事業者向けに行った、「低炭素地域づくりに関する市民・事業者アンケート調査」によると、利用することが多い交通手段は、「自動車（自分で運転）」が66・3%と最も多く、次いで「自動車（家族が運転）」が19・5%、「徒歩」が14・0%という結果となり、手軽で利便性の高い自家用車を利用する傾向が高いことがわかりました。

一方、公共交通といわれる「鉄道」、「路線バス」、「タクシー」は、それぞれ

4位、6位、8位となっています（図表2）。

こうした結果をみると、「自動車があるから、公共交通は使わないし、必要ないのではないか」と考える方もいるかもしれませんが、しかし、自動車を持たない高齢者の世帯や、平日の昼間などには家族が通勤に使い、家に車がないため、移動できない方がいることも事実なのです。こうした方々にとって路線バスの廃止は、「生活環境の悪化」ともいえる、重大な問題なのです。このため、公共交通の見直しは、重要な課題となっているのです。

かつての路線バス

昭和の頃、路線バスは地域の重要な足としての役割を果たしていました。都留市駅には何台もの「ボンネットバス」が並び、駅を起点に各地域を結んでいました。この頃のバスには、運転手の他、車掌が乗っており、切符の販売などを行っていました。

こうしたバスに乗って谷村町へ買物に行った、というのを覚えている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

また、バスはコミュニケーションの場でもありました。バスに揺られながら、他

市民自らが「創り、愛し、守る」公共交通に向けて—